ゆくて遥かに

平成 30 年５月１日（火）
第５号
長野県松本深志高等学校長

土曜公開授業・ＰＴＡ総会（４月 28 日）

廊下を行き交うたくさんの中学生

貴重な週末の土曜日、大型連休の初日、絶好の行楽日和、と三拍子揃ってしまった 28 日ですが、年に一度のＰＴＡ総会を行いました。午前中は土曜授業で一般公開。朝８時 40 分１時限開始と同時にたくさんの方々にご来校いただきました。本校は 65 分授業ですので、１時限だけでもたくさんの授業を見ていただくことができます。３時限が終わる 12 時 15 分までの間に授業を参観された方々は、本校保護者 137 名、中学生 174 名、中学生の保護者 51 名、一般の方 11 名、合計 373 名でした。また、午後のＰＴＡ総会には 240 名を超える保護者の皆さまにご出席いただき、その後の学年ＰＴＡ、学級ＰＴＡではさらに多くの方にご参加をいただきました。本当にありがとうございました。

近くの人と対話したり

さて、授業についてです。一時期、アクティブラーニングという言葉が頻繁に取り上げられました。今は「主体的・対話的で深い学び」に言い換えられていますが、これは授業の「型」を目的化した動きが出てきたことへの警鐘であって、アクティブラーナー（主体的学習者）を育てるという大きな目的は変わりありません。

グループで話し合ったり

それでは今なぜ、「主体的・対話的で深い学び」なのでしょうか。これまでも時代は常に大きな変貌を遂げてきていますが、ここへ来ての変化は特に急激で、少子高齢化が進行する一方で、ＡＩ等の様々な技術は加速度的に進歩しています。このような変化の激しい時代、将来を見通すことが困難で、正解のない時代を生きる人たちに必要な力は、これまでの社会に適応する力から、新たな社会を創造する力へと移行するものと考えられています。今しきりに言われている高大接続改革、大学入試が大きく変えられようとしているのもこの文脈の中にあります。

学力というとこれまで、「知識・技能」の習得に重きが置かれてきた傾向がありましたが、それだけでなく「考え、判断し、表現する力」や「主体的に学びに向かう力」がこれから必要になる力であり、大学入試でもそこをしっかりと見て行こう、という改革です。そのために、高校でも主体的・対話的で深い学びを意識した授業をやっていこう、ということで最初の問につながります。もちろん、知識や技能の習得はすべての学びの基本ですから、これらを疎かにするということではありません。むしろ、深い学びとなるためには、知識や技能の習得は引き続き、徹底しなければなりません。

ＰＴＡ新役員の皆さん、よろしくお願いいたします

「受験生の保護者としての心構え」（三学年ＰＴＡ）

その上で、主体的な学びや対話的な学びを効果的に取り入れて、思考・判断・表現・主体性と言った力を育んでいこうということです。言うは易し、行うは難し、の面はありますが、深志でも 65 分の授業の中でいかに生徒の頭の中をアクティブにしていくかを常に意識しながらの試行錯誤が始まっています。今年度、県にお願いをして、すべての教室に電子黒板を設置してもらえることになりました。ＩＣＴ機器を活用することも、新しい学びの有効な手段になればと思っています。

　一方で、高校生は授業だけではなく、部活動や生徒会活動などの自主活動を通して自主性や主体性が育ち、大きく成長していくことも確かです。自治の精神を始めとした 142 年の校風、失ってはいけない深志らしさ、変えてはいけない深志らしさがあり、一方で、時代の変化に合わせて、変えていかなければならない部分もあります。学びの改革と進路実現、深志にとって重要課題です。

春爛漫の４月第四週です

上段左から、ロータリーの牡丹の花、県営住宅の八重桜、家庭科の授業で二年生が作った桜餅（超美味！）、下段左から、とんぼ祭ポスター（早くも）、授業変更のお知らせ（深志ではこのように掲示して生徒に知らせています）

今週の予定（Ｂ２）

日	曜日	行　　事　　等	そ　の　他
5／ 1	火	（Ｂ２）木の授業	
2	水	（Ｂ２）金の授業	
3	木	憲法記念日	
4	金	みどりの日	
5	土	こどもの日	
6	日		
7	月	（Ｂ２）	校長研修